

思い出いっぱい弁当

呉市立昭和北小学校 六年 益村啓佑

ぼくの家では、どこかに出かける時には、

お母さんが弁当を作ってくれます。(外食でも

いいのに)と思っけど、

「愛情、愛情」。

と言って、お弁当を作る。

「えー」。

とぼくは言うが、実は、お母さんの作るお弁当の方が、何倍もうおいしい。(今日のお弁当

は何だろう?)

お母さんは、にやっとしながら、

「あるものでね」。

と言って作っていく。でも、ぼくは知っ
ている。ぼくの好物を必ず入れてくれること
を。

キッチンから調理器具のカタカタという音と

良い匂いがしてくる。匂いと音が、出かける

楽しさをさらに高めてくれる。お母さんはい

そがしそうにおかずとおにぎりを作っ
ていく。

お弁当の時は、決まっ
ておにぎりだ。お母さん

んのにぎるおにぎりは、しっかりとにぎられていて、お米のおいしさがギュッとつまっている感じでおいしい。ぼくがにぎると、形もいびつで、ぼろっとくずれちゃう。お母さんには、ぼくが塩にぎりが好きなのを知っている。中にも何も入れずにぎってくれる。さすが、ぼくのことをよく分かっている。おかずは、定番の卵焼きだ。ネギ入りの卵焼きがクルクルとキレイにまかれている。これもぼくの好物だ。そして、キエウリの塩づけ。

食べた時に、ポリポリと音がして、うっすら塩の味がして、食がすすむ。後は、魚やお肉等、その時に家にあるものをつまめてくれる。あ、という間にお弁当が出来上がった。一しまった。ぼくの準備が終わっていない。いそいで準備をして、車に乗りこむ。

今日はいつもの海岸線へのドライブだ。ぼくの元気がない時に、よく連れ出してくれた秘密の場所だ。そこから景色を見ながら、お弁当を食べるのが定番だ。ぼくの大好きがフ

まっ たお弁当を開け、さっそく、おむすびを
食べる。ふんわりとしたお米の粒が口に広が
る。塩キョウリを口にする。ポリッ、良い音
がしておむすびがさらにおいしく感じる。こ
の組み合わせは最高だ。卵焼きも、今日は少
し甘めの味付けだ。ばくばくばく。あつとい
う間にお弁当が空になる。お弁当が空になる
ころには、ぼくのお腹も心もいっぱいになっ
ている。お弁当を食べ終わると、景色を見た
り、近くを散歩する。海風が気持ち良い。ほ

くの心がほぐれている様子を見てか、お母さ
んはうれしそうだ。

今、コロナ禍で、自しゅくばかりで、心も
つかれてしまっている。本当は、もっ
と行きたい所に、好きにだけ行けたらいいけど
もうしばらくは難しそうだ。でも、お母さん
が色々考えて連れ出してくれる秘密の場所や
そこで食べるお弁当はとても良い思い出だ。
「ありがとう。ごちそうさま。おいしかった
よ。また出かけようね」。